四日市版コミュニティスクール報告書（令和４年度総括）

四日市市立　桜小　学校

校長　　岩田　久二雄

１　コミュニティスクール（運営協議会）のねらい

本校は、四日市版コミュニティスクールの指定を受け、１０年目になります。運営協議会の通称名を『桜～絆～委員会』（平成２７年度より）とし、学校・家庭・地域の三者の絆をより深めていくことを確認し合っています。

『桜～絆～委員会』での活動や学校関係者評価を通して学校教育の更なる充実を図り、学校教育目標「豊かな心でみがき合い、自ら考え行動する子どもの育成」と開かれた学校づくりの推進に努めています。

２　コミュニティスクール（運営協議会）の実践について

（１）教育活動の実践事例

登下校時の見守り等では、運営協議会委員さんや「桜地区安全・安心まちづくりの会」・「こどもをまもるまち」登録者の方々にご協力をいただきました。中でも、本校は、近年、猿の出没が増え、特に児童の下校時間帯には気を付けてみてもらったり、学校へ連絡をしてもらったりしました。

環境美化目的で整備をすすめている「地域連携花壇」は、正門玄関付近にあり、園芸委員会の児童が中心となって、環境ボランティアの方々と連携して、今年度も、春と秋に「定植」を行いました。子ども達は一緒に花の苗を植えながら、挨拶や言葉を交わすなど、意欲的に関わろうとする姿が見られました。また、今後の花壇の様子を楽しみに、水やりや草取りなど一生懸命に世話をしていこうとする気持ちが行動にも表れていました。

図書飾りボランティアの方々には、読書への関心が深まるような図書室前の飾り付けをしていただきました。季節を意識して工夫された飾りは、子ども達も興味を持ち、立ち止まって見入ったり友達との会話の話題になったりしていました。

運営協議会の方が中心になって、運動場の草刈りを地域の方に呼びかけていただき、7 月から 9 月にかけて 2 回、運動場を中心に草刈りを行っていただき、児童が安全に活動できる場所になりました。

その一方で、今年度も、新型コロナウイルス感染拡大予防のため、毎年行っている図書読み聞かせボランティアの方々による本の読み聞かせ、１年生と地域の「桜たのし会」との昔遊びでの交流、３年生の昔の暮らしや生活について

の聞き取り、４年生の智積養水の清掃活動、６年生の地域の「桜ボランティア協会」にお世話になる車椅子やアイマスク、手話などの福祉体験は中止となりました。しかし、「米つくり体験」は、地域・保護者の方にご協力をいただくことができ、5 年生と 6 年生が田植え・稲刈り・脱穀の体験活動を行うことができました。米つくり体験を楽しみにしていた児童が意欲的に取り組む姿が見られました。

運営協議会開催については、感染対策を実施しながら、桜中学校との合同開催、桜中学校区内の三校による合同運営協議会への出席等を今年度は実施することができ、児童や地域に関する情報共有の場となりました。

（２）コミュニティスクール（運営協議会）の取組による効果

①　コミュニティスクールの指定を受けていることで、自治会や PTA、民生委員等の地域の様々な団体の皆様と活動を共にしていく機会が増え、学校教育活動を多面的に支援していただき、地域と学校との繋がりがさらに密になり、お互いの関係の深まりを毎年感じることができています。

②　１２月に行った保護者アンケートの項目「学校は、保護者や地域の人々に授業を公開したり、子どもが地域の人々に教えてもらったりする機会を作っていますか。」については、肯定的評価の割合が今年は９２％と昨年度より １ ポイント高くなりました。今年度も、新型コロナウイルス感染拡大予防のため、活動を制限せざるを得ない状況となり、家庭・地域と連携して教育活動を進めることに難しさを感じました。今後は、状況に応じて学校・家庭・地域の三者の連携・協力がさらに深まるように取組を工夫しながら進めていきます。

３　今後に向けて

コミュニティスクールを推進していくには、保護者だけではなく地域の方々に対しても、様々な情報を適切に発信し、双方向のコミュニケーションの充実を図ることが大切だと思われます。

各自治会に回覧していただいている『さくらっ子』（学校だより）も地域に定着してきています。また、学校ホームページでは、「学校・学年の様子」や「地域連携の様子」のページで、児童の様子や学習活動をはじめ、環境・図書ボランティアさんの活動の様子や桜～絆～委員会の様子などを発信しています。

桜中学校区での三校（桜中・桜台小・桜小）合同の会議も恒例となり、桜中学校区全体で児童・生徒のよりよい成長を見守っていこうとする機運が高まっています。

コミュニティー指定から１０年を経過して、地域とのつながりの一層の深まりを感じているとともに、今後も地域と小学校だけの繋がりだけでなく、地域と小学校・中学校がこれまで以上に連携を深め、9 年間の義務教育期間における児童生徒の健やかな成長を育むことができるようにと考えています。